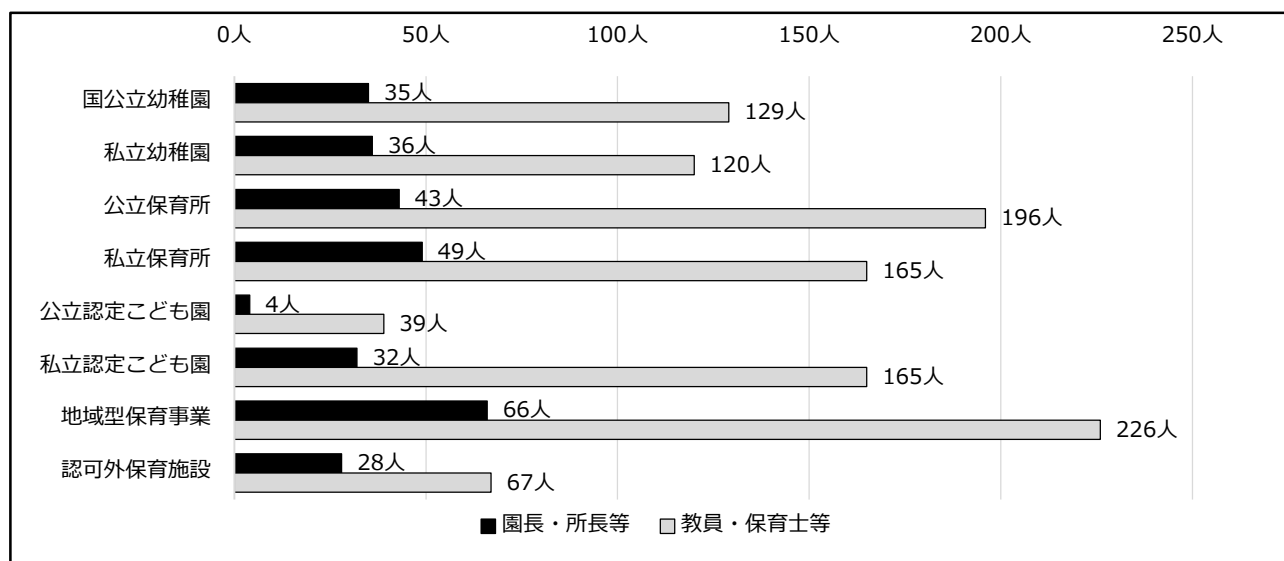


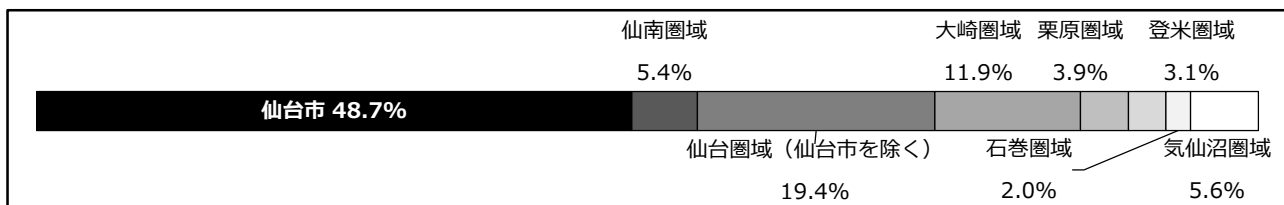
## 幼児教育に関わる実態調査結果（対象者：園長・所長、教員・保育士等）

### 回答数

対象施設		回答数（人）				
施設区分	施設数	園長・所長等	回答率	教員・保育士等	合計	
幼稚園	国公立	60	35	58.3%	129	164
	私立	127	36	28.3%	120	156
	小計	187	71	38.0%	249	320
保育所	公立	141	43	30.5%	196	239
	私立	224	49	21.9%	165	214
	小計	365	92	25.2%	361	453
認定こども園	公立	9	4	44.4%	39	43
	私立	171	32	18.7%	165	197
	小計	180	36	20.0%	204	240
地域型保育事業	282	66	23.4%	226	292	
認可外保育施設	264	28	10.6%	67	95	
合計	1,278	293	22.9%	1,107	1,400	



### 施設所在地



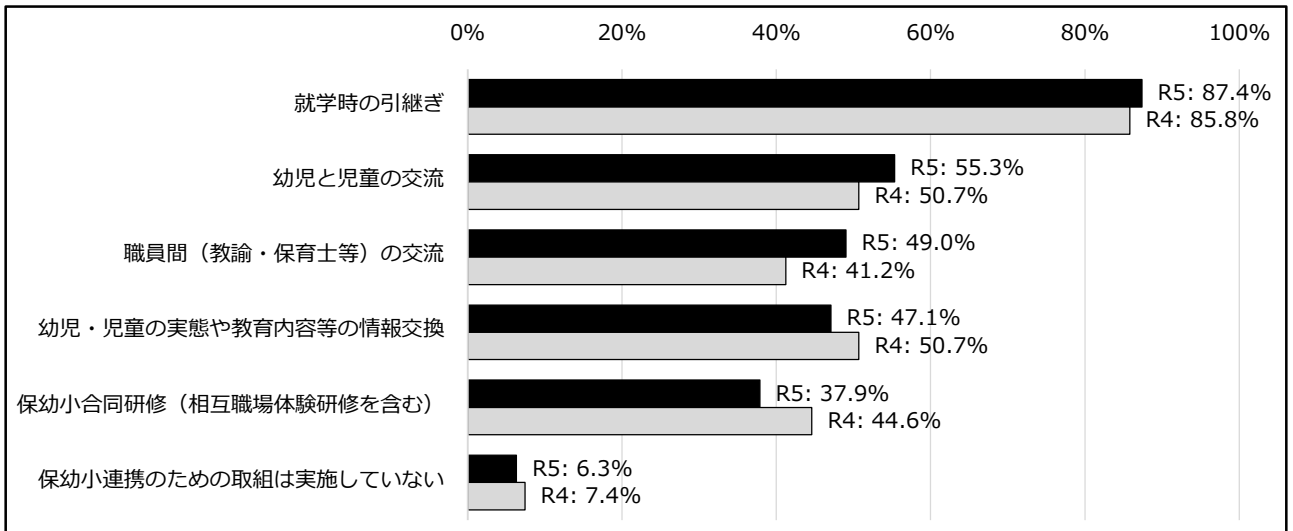
### 回答方法

スマートフォン 84.3%

パソコン 15.7%

# 1 保・幼・小連携について（園長・所長のみ回答）

## 1-1 保幼小連携・接続のための取組としてどのようなことを実施していますか。 （該当するもの全て選択）



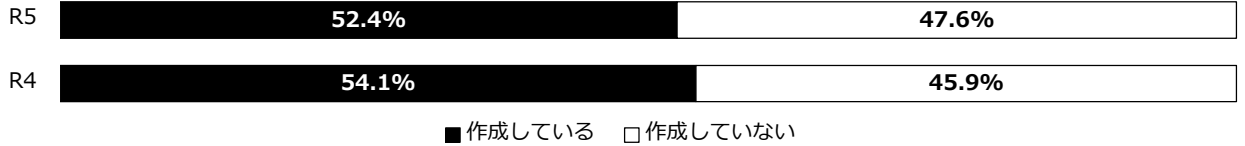
- 設問「1-2-4」において「0～2歳児のみを対象とする施設のため作成していない」の選択肢を設置  
→ 全回答施設「293施設」中「87施設」がこの選択肢に該当すると回答
- 幼児教育と小学校教育の連携・接続のための取組に関する質問のため上記施設を除外した「206施設」の状況を集計  
→ 「回答者のより正確な実態」を集計

施設類型 連携内容	国公立 幼稚園	私立 幼稚園	公立 保育所	私立 保育所	公立 認定 こども園	私立 認定 こども園	地域型 保育事業	認可外 保育施設
カリキュラム作成	80.0%	33.3%	74.3%	39.5%	100.0%	61.3%	0.0%	20.0%
就学時の引継ぎ	91.4%	94.4%	100.0%	83.7%	75.0%	96.8%	57.1%	30.0%
幼児と児童の交流	85.7%	52.8%	57.1%	44.2%	50.0%	61.3%	21.4%	20.0%
職員間の交流	74.3%	33.3%	54.3%	37.2%	100.0%	38.7%	42.9%	60.0%
情報交換	71.4%	38.9%	60.0%	34.9%	25.0%	45.2%	35.7%	30.0%
保幼小合同研修	60.0%	22.2%	54.3%	34.9%	25.0%	25.8%	21.4%	30.0%
<b>取組未実施</b>	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%	3.2%	28.6%	60.0%

### 【概要・考察等】

- 保幼小連携・接続のための取組を「幼児と児童の交流」、「職員間の交流」と回答した割合は、昨年度よりそれぞれ4.6ポイント、7.8ポイントと増加しており、新型コロナウイルスの5類移行によって、交流の機会は増加していることがうかがえる。
- 「幼児と児童の交流」「職員間の交流」と回答した割合が増加したことから、幼児教育と小学校教育の相互理解や連携接続を図ろうとする施設の意識が少しずつ高まってきていると考えられる。
- 「就学時の引継ぎ」においては1.6ポイント増加し、連携や接続の必要性・重要性の意識が高まってきていると言える。
- 「保幼小合同研修」と回答した割合が、昨年度より6.7ポイント減少したことから、保幼小連携・接続の必要性・重要性について、更なる啓発が必要である。

**1-2-1 保幼小接続のためのアプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムを作成していますか。**

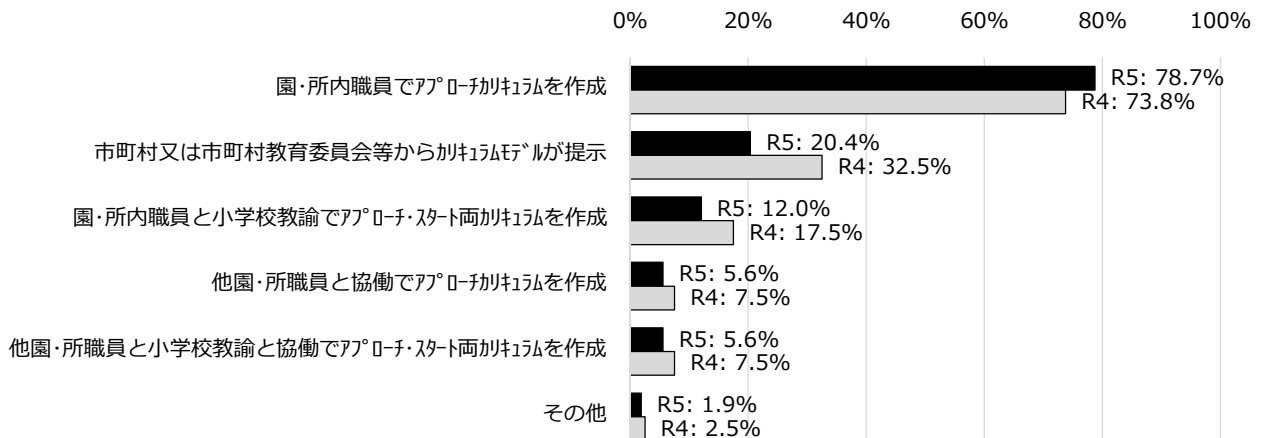


- 設問「1-2-4」において「0～2歳児のみを対象とする施設のため作成していない」の選択肢を設置  
→ 全回答施設「293施設」中「87施設」がこの選択肢に該当すると回答
- 幼児教育と小学校教育の連携・接続のための取組に関する質問のため上記施設を除外した「206施設」の状況を集計  
→ 「回答者のより正確な実態」を集計

**【概要・考察等】**

- 保幼小接続のためのアプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムを「作成している」と回答した割合は、52.4%で昨年度とほぼ同じ割合となった。
- 今年度の実態調査では、全回答数が増加していることから、カリキュラム作成の実態が昨年度よりも正確に把握できたと考えられる。
- 市町村幼児教育（保幼小連携）担当者研修会を通じて、接続期カリキュラム作成の必要性、重要性を啓発し、引き続き、各市町村がそれぞれ接続期カリキュラム作成等の保幼小の連携・接続に取り組んでいく体制づくりを進めていく。

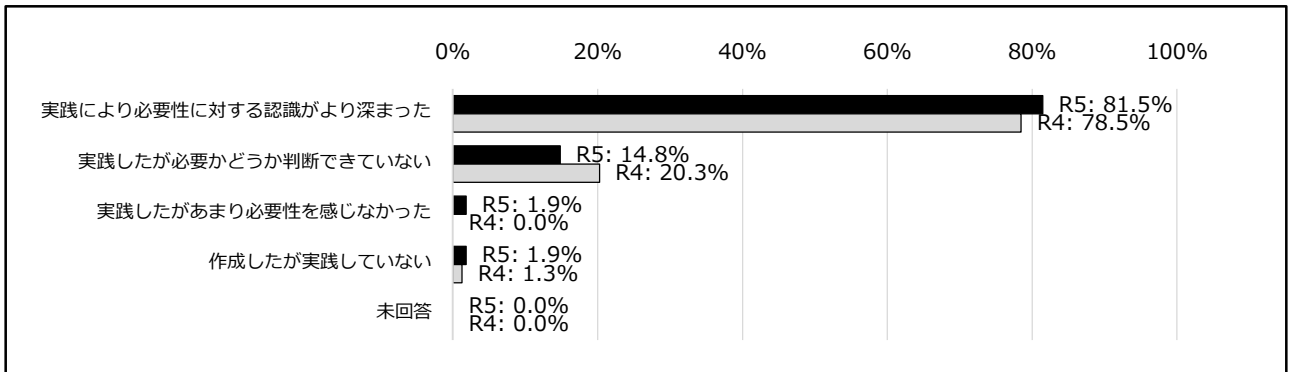
**1-2-2 「1-2-1」で「作成している」を選択した方は、カリキュラムをどのように作成していますか。（該当するもの全て選択）**



**【概要・考察等】**

- 「園・所内職員でアプローチカリキュラムを作成」と回答した割合は、昨年度より4.9ポイント増加しており、各幼児教育施設において、接続期カリキュラム作成に対する理解が深まっている一方、「市町村又は市町村教育委員会等からカリキュラムモデルが提示」と回答した割合は、昨年度より12.1ポイント減少しており、市町村又は教育委員会の保幼小の連携・接続の取組について、一層の理解促進が必要である。
- 「幼児教育施設と小学校の教職員でアプローチ・スタート両カリキュラムを作成している」と回答している割合は、依然少ない状況であることから、引き続き保幼小の相互理解のもと、合同で作成していくことの重要性を啓発していく必要がある。

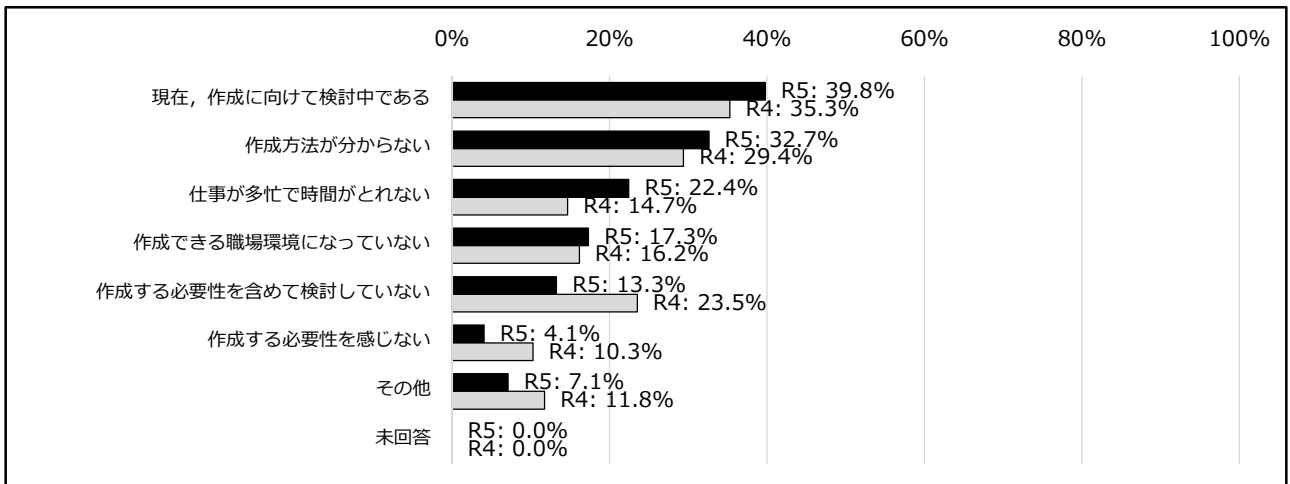
**1-2-3 「1-2-1」で「作成している」を選択した方は、作成したカリキュラムの実践を通した園・所内全体での成果をお答えください。**



**【概要・考察等】**

- 「実践により必要性に対する認識がより深まった」と回答した割合は、昨年度より3ポイント増加した。これは教育の連続性に配慮した環境を用意し、接続に関わる効果を認識できたと考えられる。
- 「実践したが必要かどうか判断できていない」と回答した割合が5.5ポイント減少している。これは、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、幼児や児童同士の交流が増加するなど、子供たちの学びの姿を実際に見る場面が増え、保幼小の連携や接続の取組を実感として感じることができている機会が増加していることが考えられる。引き続き、カリキュラムの見直し等の必要性を啓発していく。

**1-2-4 「1-2-1」で「作成していない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）**



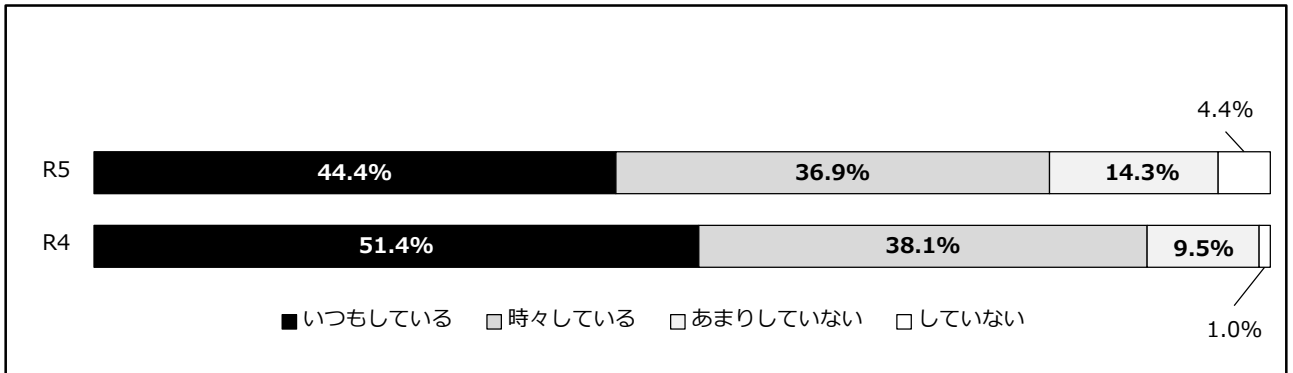
- 設問「1-2-4」において「0～2歳児のみを対象とする施設のため作成していない」の選択肢を設置  
→ 全回答施設「293施設」中「87施設」がこの選択肢に該当すると回答
- 幼児教育と小学校教育の連携・接続のための取組に関する質問のため上記施設を除外した「206施設」の状況を集計  
→ 「回答者のより正確な実態」を集計

**【概要・考察等】**

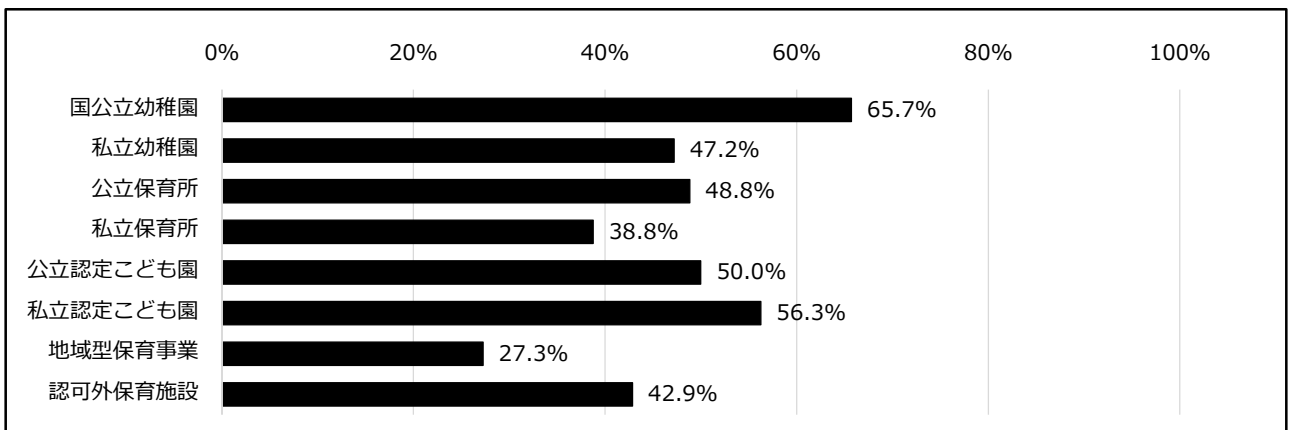
- 「現在、作成に向けて検討中である」と回答した割合は4.5ポイント増加し、約4割が作成に向けて前向きにとらえていることが分かる。
- 「作成方法が分からない」と回答した割合は、3.3ポイント増加しており、接続期カリキュラムの重要性について、更なる啓発が必要である。
- 「作成する必要性を含めて検討していない」は10.2ポイント、「作成する必要性を感じない」は6.2ポイント減少しており、接続期カリキュラム作成の重要性について、理解が広がってきている。「現在、作成に向けて検討中である」「作成方法が分からない」の回答があることから、研修会等で具体的な作成の内容について学ぶことができるようにしていくことが必要である。

## 2 基本的な生活習慣について（園長・所長のみ回答）

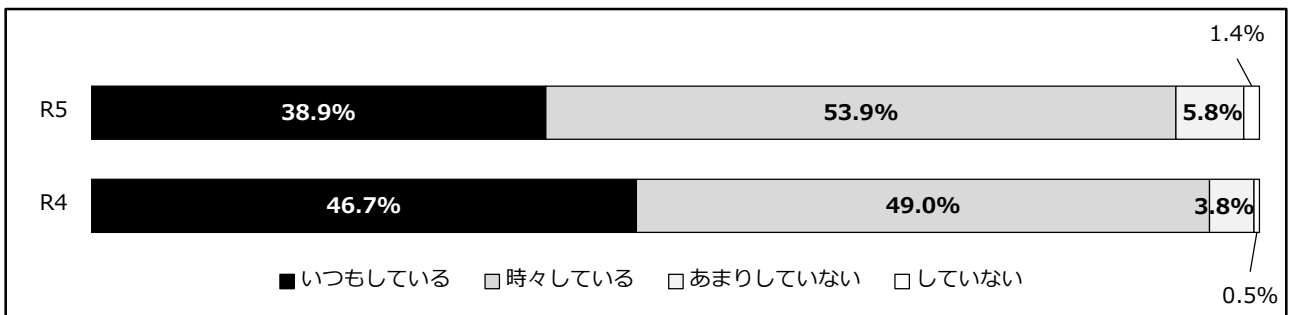
### 2-1 幼稚園や保育所等の活動において「はやね・はやおき・あさごはん」運動などの基本的な生活習慣の確立のための取組をしていますか。



（今年度「いつもしている」と回答した施設類型別内訳）



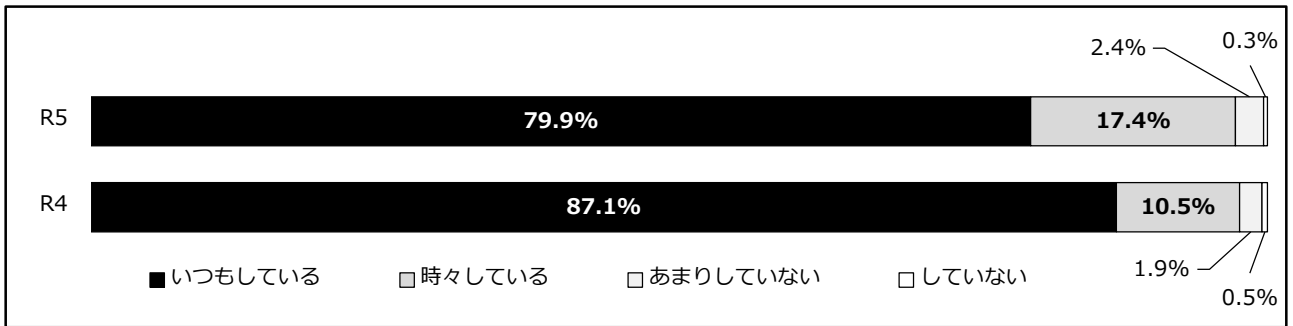
### 2-2 基本的な生活習慣の確立のために、家庭への啓発をしていますか。



#### 【概要・考察等】

- 「はやね・はやおき・あさごはん」運動などの基本的な生活習慣の確立のための取組を「いつもしている」は7ポイント減少し、「時々している」においても1.2ポイント減少した。
- 家庭への啓発を「いつもしている」「時々している」と回答した割合において、昨年度より2.9ポイント減少している。
- 基本的な生活習慣の確立のための重要性について理解を促進していくために、更に「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発をさらに図っていく必要がある。

### 2-3 外遊びや運動など体を動かす習慣の確立のための取組をしていますか。

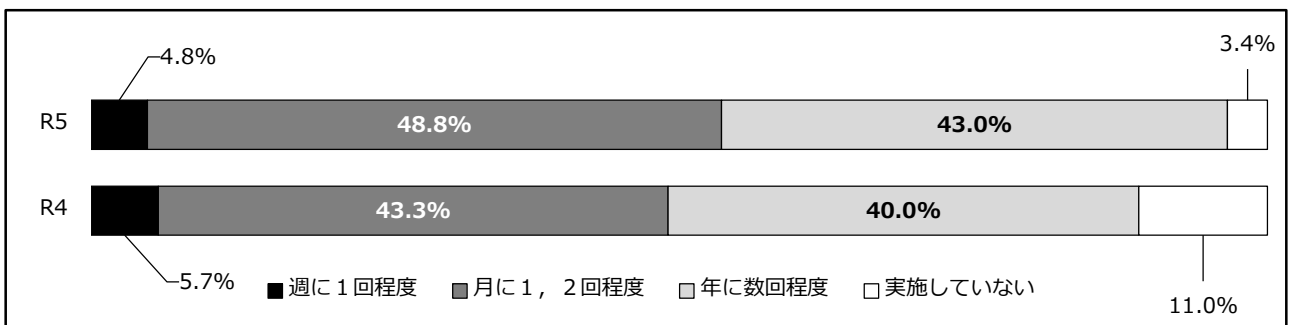


#### 【概要・考察等】

- 体を動かす習慣の確立のための取組を「いつもしている」と回答した割合は、昨年度より7.2ポイント減少した。
- 「いつもしている」「時々している」と回答した割合は、概ね昨年度と同様であり、また97.3%であることから、体を動かす習慣が着実に広がっていると考えられる。

### 3 園内研修について（園長・所長のみ回答）

園内研修の頻度についてお答えください。

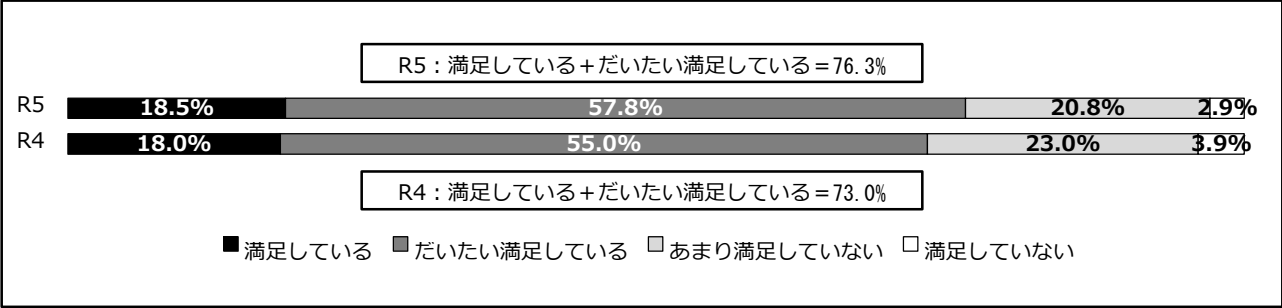


#### 【概要・考察等】

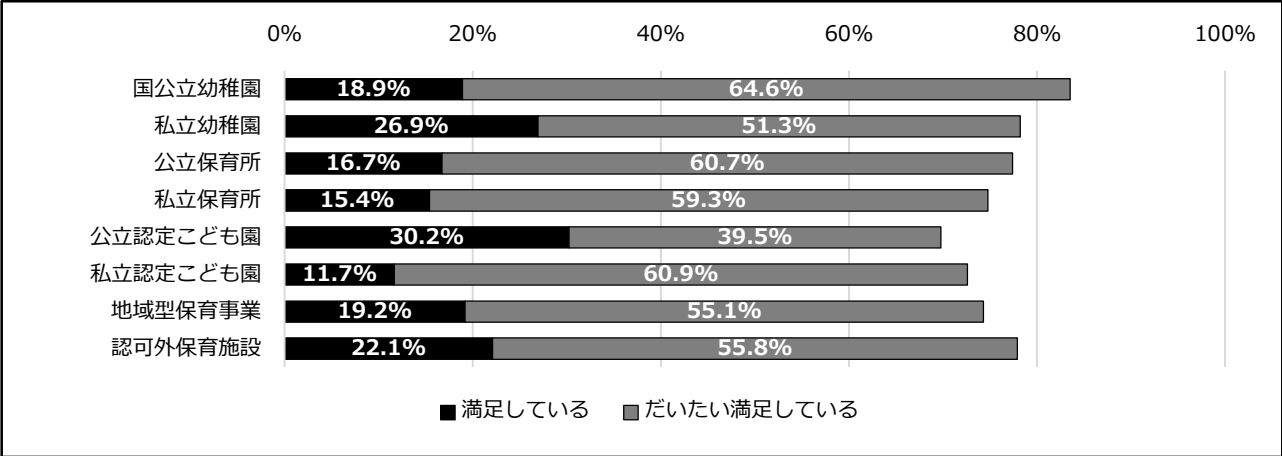
- 園内研修の頻度が「週に1回程度」と回答した割合は、昨年度より0.9ポイント減でほぼ同じ割合だが、「月に1, 2回程度」と回答した割合は、5.5ポイント増加した。
- 「実施していない」と回答した割合は、昨年度より7.6ポイント減少しており、継続的・定期的な園内研修の取組が少しずつ定着してきていることがうかがえる。
- 引き続き、幼児教育アドバイザーの派遣やICTを活用した研修教材の提供など、継続的・定期的な園内研修の支援を行っていく必要がある。

## 4 研修について（全員回答）

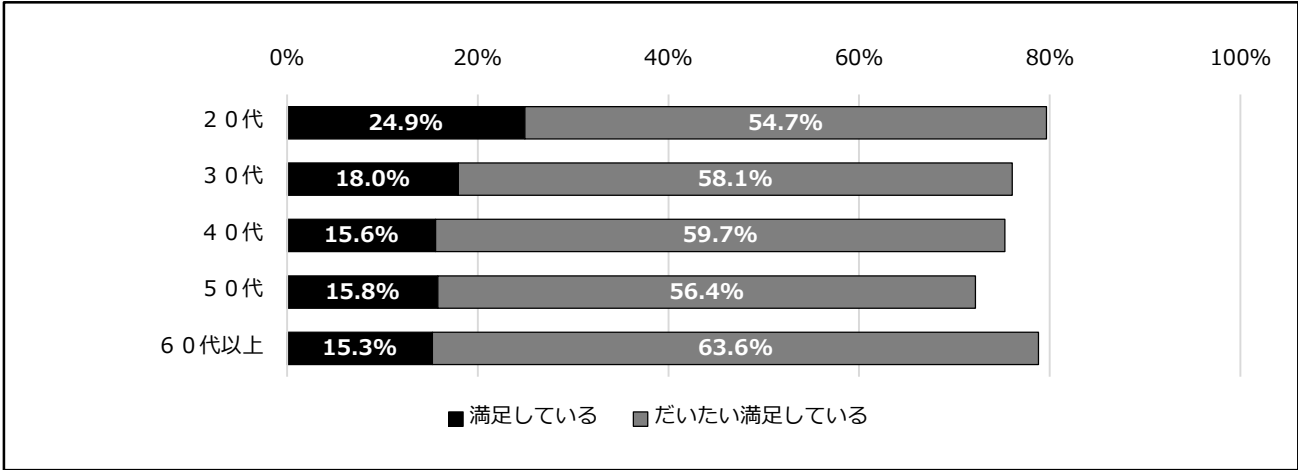
### 4-1-1 現在の御自身の研修状況についてお答えください。



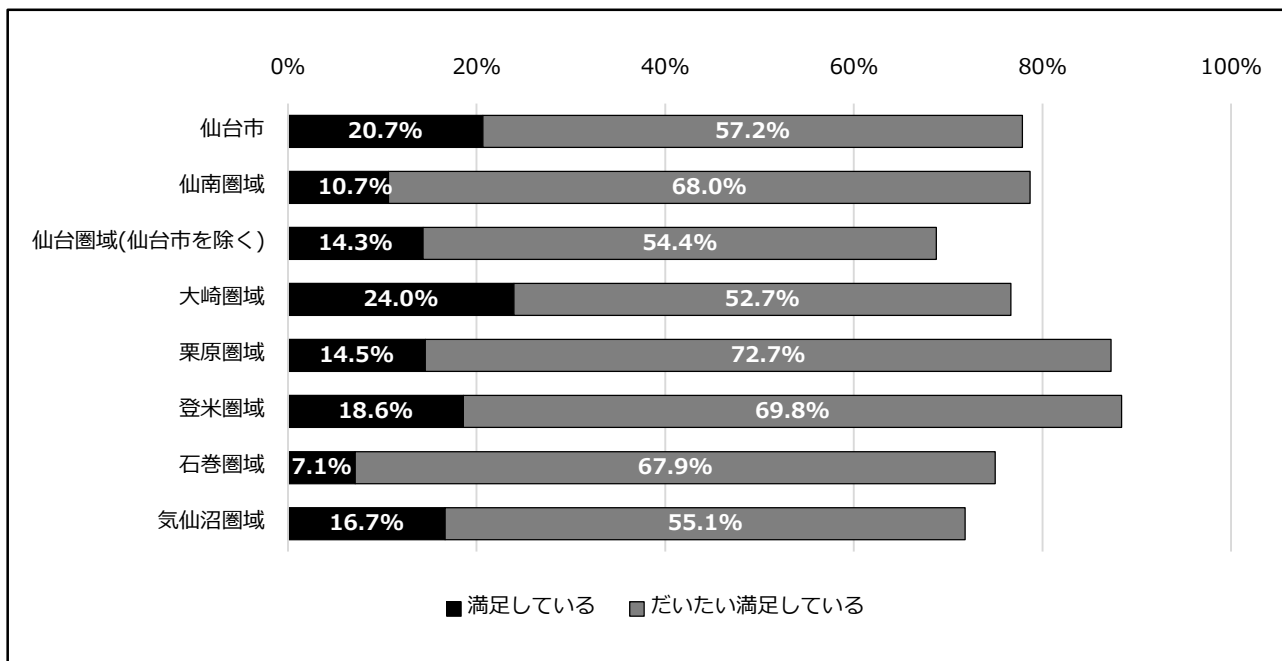
（今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した施設類型別内訳）



（今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した年代別内訳）



(今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した圏域別内訳)

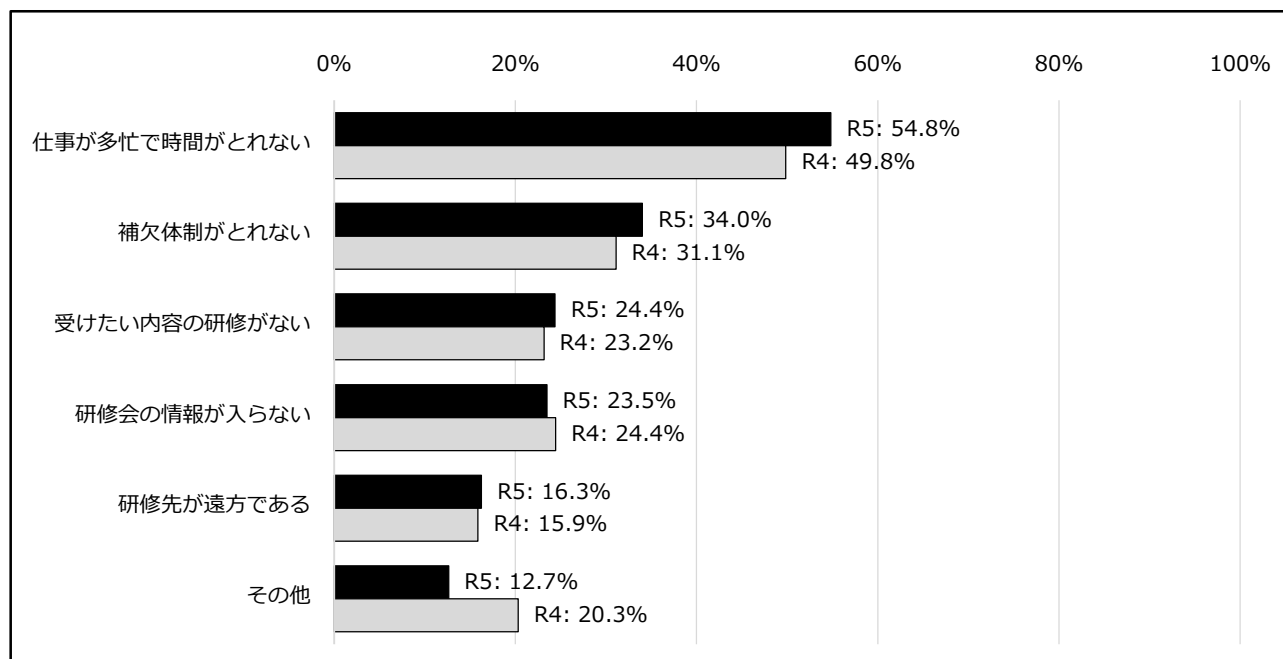


**【概要・考察等】**

- 現在の研修状況に「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、昨年度より3.3ポイント増加した。
- 年代別では、「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、20代は79.6%で一番多く、年齢が高くなるにつれて減少する傾向にあるが、昨年度と比べると60代以上の満足度が高く、年代別の差は小さくなっている。
- 圏域別では、「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、登米圏域が88.4%と最も高く、仙台圏域が68.7%と最も低かった。



**4-1-2 「4-1-1」で「あまり満足していない」又は「満足していない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）**



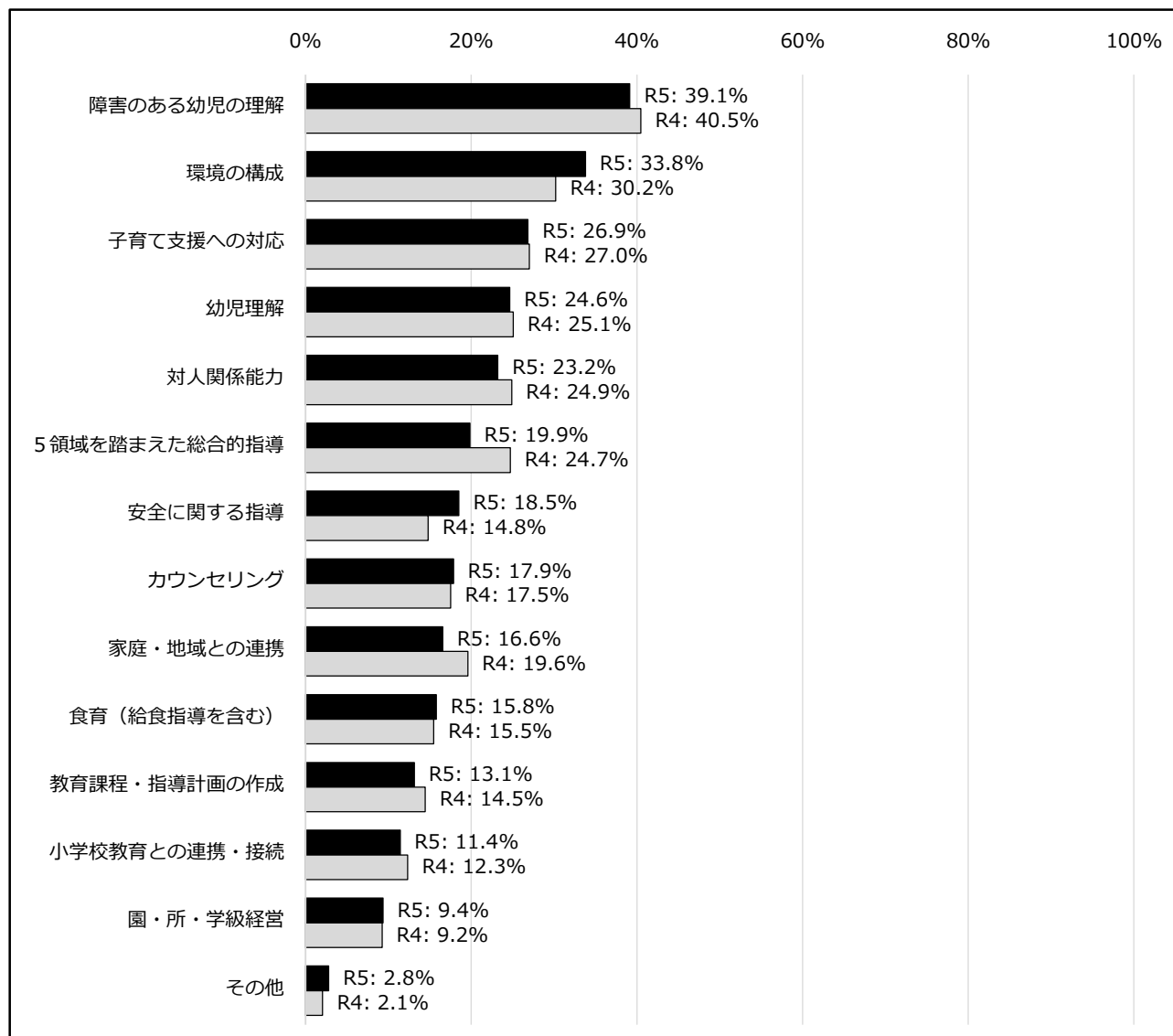
**【その他の主な内容】**

- コロナ感染が気になり、会場での受講ができない。
- 補欠をお願いしにくい雰囲気がある。
- オンライン研修が多くなり、そのための環境が整っていない。

**【概要・考察等】**

- 昨年度と同様、「仕事が多忙で時間がとれない」を理由として回答した割合が最も多く、昨年度より5ポイント増加した。
- 短時間でも効率的に研修を行うことが可能になるように、オンライン研修の実施やICTを活用した研修教材の提供など、研修の機会を確保していく工夫が必要である。
- 自由記述の中で「人員不足」や「パート（非常勤）」などが研修を受けることができない理由として挙げられていることから、幼児教育施設の勤務体制等の改善が必要であると考えられる。

#### 4-2 今後、受講したい研修会等の内容についてお答えください。（該当するもの3つ選択）



#### 【その他の主な内容】

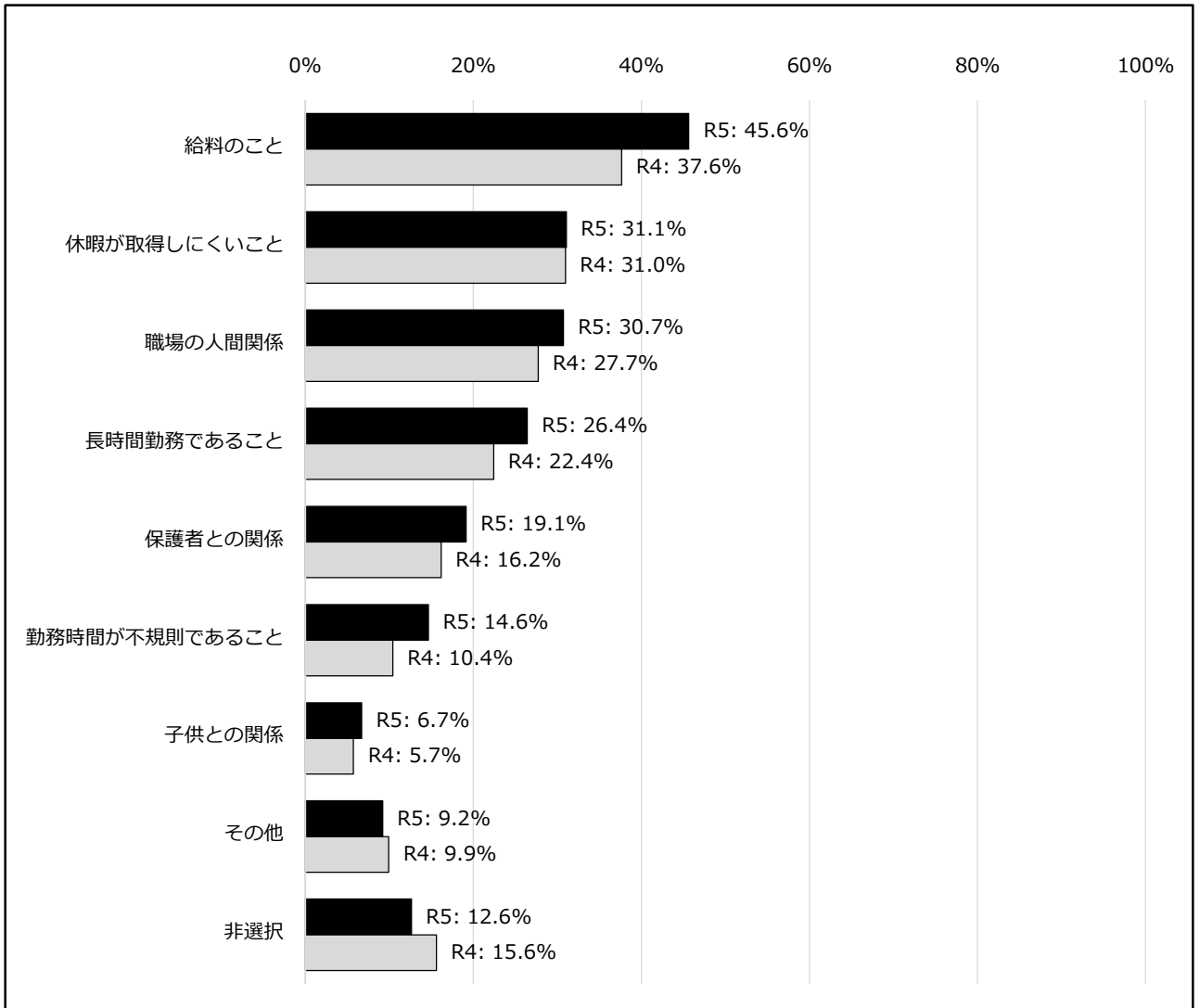
リズム遊びや歌遊び、人材育成、保護者対応、災害時の対応や手当ての仕方について

#### 【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「障害のある幼児の理解」や「環境の構成」を受講したい内容と回答した割合が最も多かった。
- 受講したい内容の順位は、概ね昨年度と変わらないが、社会情勢を受け、「安全に関する指導」が昨年度より3.7ポイント増加した。

## 5 職業上の悩みについて（全員回答）

働く上で悩んでいることがありましたら、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



### 【その他の主な内容】

職員不足、職場環境の改善、自身の家庭生活と仕事の調和、園・所の運営

### 【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「給料のこと」を理由として回答した割合が最も高かった。
- 職業上の悩みの理由の順位は、概ね昨年度と変わらない。

## 6 「ルルブル」について（全員回答）

子供の基本的な生活習慣の確立に向けた「ルルブル」の取組に関して、御自身の教育・保育における取組状況についてお答えください。



- 「ルルブル」を実践（意識）している
- 「ルルブル」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- 「ルルブル」は知っているが、実践（意識）していない
- 「ルルブル」を知らないし、実践（意識）していない

### 【概要・考察等】

- 「ルルブル」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より13.6ポイント減少した。
- 「実践（意識）している」「知っているが、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より13.4ポイント増加し、「ルルブル」の取組の認知度は上がっている。より実践を伴うような取組となるよう、更に「ルルブル」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。

## 7 「学ぶ土台づくり」について（全員回答）



- 「学ぶ土台づくり」を実践（意識）している
- 「学ぶ土台づくり」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- 「学ぶ土台づくり」は知っているが、実践（意識）していない
- 「学ぶ土台づくり」は知らないし、実践（意識）していない

### 【概要・考察等】

- 「学ぶ土台づくり」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より7ポイント減少した。
- 「実践（意識）している」「知っているが、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より5.6ポイント増加し、「学ぶ土台づくり」の取組の認知度は上がっている。より実践を伴う取組となるよう、更に「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。